

# 上海レポート

令和3年7月号

Vol. 11



公益財団法人 大阪産業局上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn  
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20210705号	中国・上海の夜間経済(ナイトタイムエコノミー)	副所長 大山知宏
20210712号	中国のスポーツ用品メーカーについて調べました	副所長 前田千晶
20210719号	上海で発熱！病院・行政連携による「人の制御」	所長助理 徐潔
20210726号	中国における商標について	所長 南浦秀史

## 中国・上海の夜間経済(ナイトタイムエコノミー)

上海では、6月5日～20日の日程で、「買い物」「食事」「文化活動」など7つのテーマの下「第2回上海夜生活節 (shanghai night festival)」というイベントが開催されました。本イベントは、コロナの影響で落ち込んだ個人消費の刺激策の一つとして、上海市政府の後押しにより昨年からはまったものです。中国各地の主要都市でも、地元政府と民間企業が連携した同様の取組が行われており、夜間の消費活動を促すことが目的です。本イベントを皮切りに、夏の期間中、上海市内の各地では夜市やナイトミュージアムなど様々な集客イベントが実施されます。

データの上でも、こうした夜間経済は、中国の経済成長に少なからず寄与しており、中国の調査会社 iiMedia Research の分析によると、2020年の夜間経済の規模は30兆元(約510兆円)を超えており、今年は36兆元(約612兆円)まで増加し、2022年には40兆元(約680兆円)を超えが見込まれているとのこと。また、上海は、広州や北京など他の大都市を抑えて、2020年に夜間経済が最も発展した都市とのこと。

この夜間経済、音楽ライブなど比較のおしゃれなイベントが多いため、流行に敏感な20代、30代や、夏休み中の学生などの若年層がボリュームゾーンとなって、その活動を引っ張っているのかなと個人的に分析しています。

夜間経済の人気の秘密はどこにあるのか、今年は、私も感染症対策をしっかりと行って、体験してみようと思います。



-----  
中国のスポーツ用品メーカーについて調べました  
-----

先日、中国のマラソン大会に初めて参加し、日本でよく知られている「NIKE」、「adidas」等の靴ではなく、多くの人が、全く見たこともない靴を履いているのが気になり、調べてみました。

それは「特歩(Xtep)」という、本社は福建省にあり、2008年に香港の証券取引所に上場した中国のスポーツ用品メーカーの靴でした。同社はマラソン業界に照準を合わせており、マラソン関連アパレルにおいては国内トップ、世界では第四位の実績があります。

中国大手 EC サイトで商品を検索してみると、国内ブランドであるにも関わらず、高速シューズは一足 999 元(約 17,000 円)となかなかのお値段で驚きました。それでも多くの人が購入するのは、まず、同社のシューズの品質が理由です。同社は 10 年以上ランニング関連用品に注力し、福建省アモイ市のオペレーションセンターで、赤外線高精細ハイスピードカメラや圧力センサーなどを使ってプロランナーの走りを分析することにより、ランナーにとってより質の高い製品を提供しています。

また、トップランナーによる宣伝効果も人気の一因です。2019 年のベルリンマラソンに出場した中国の董建国(とう・けんこく)が「特歩」のシューズを履いて 2 時間 8 分 28 秒の好成績を収めたことで関心を集めました。さらには、販売サイトの中には上位成績を上げている選手がシューズを紹介する動画や、練習メニューを紹介する動画など、スポーツをする人にとって関心の高いコンテンツが沢山ありました。

これらの取組みの結果として、今年の厦門マラソンでは、フルマラソンを 3 時間以内で走る選手の約 50%が着用しており、2019 年に同マラソン大会で 70%以上の方が着用していた NIKE のシェアを覆したそうです。

このように同社は、製品の品質もさることながら、ランナーに寄り添った優れた取組みにより、ますます発展していくと思います。中国に来なければ、このようなスポーツメーカーの存在について全く知ることがなかったでしょう。

せっかくなので「特歩」の靴を購入してみます。



## 上海で発熱！病院・行政連携による「人の制御」

「上海における感染症対策の仕組み」について、知人の実体験にもとづき報告する。

朝起きると、A氏は37.6℃の熱があった。午後、上海市内の病院に駆け付けた。診察の流れは以下のとおり。

16:30～「予備検査ステーション」で体温測定、及び14日間の行動報告

16:45～「発熱外来(37.3℃以上)」区域へ案内、「健康コード(健康状態を示す携帯アプリ)」「14日間の行程」の提示、PCR検査、結果判定が出るまで3時間の待機

上海ではPCR検査を個人的事情などにより辞退する事も可能となっている。A氏は家庭の事情により病院に留まる事が出来なかった為、辞退した。その際、個人情報(身分証明書・携帯番号・14日行程等)を登録し、徹底した情報管理が適用された。

こうして、A氏はひとまず自宅で療養する事になった。ここからA氏の移動歴は逐次、情報として「上海市衛生健康管理委員会」が管理する。上海では「疑わしい症状がある者」「その症状がある者が接する可能性のある者」といった具合に「人の制御」がなされている。

A氏は幸い、発熱は一時的なものであった。その情報も行政記録として管理される。上海では、一定規模の公共施設(病院・学校・駅など)において、必ず入り口で「検温・14日間の行程提示」がなされている。そのような徹底した「人」への予防や隔離の措置は、厳し過ぎると感じるかもしれない。しかし、ほぼすべての上海市民は、このような命を脅かす緊急事態において、命の安全を最優先にするべきだと理解を示している。

上海市の人口は2632万人。「人の制御」を徹底した感染症対策により、これだけの人口があっても市中での新規感染者ゼロを記録している。



健康コード

14日間行程  
ハイリスク地域に滞在すると  
↑が赤くなる

発熱外来の隔離エリア  
(病院ごとに配置がかわる)

